



怪我から生徒を守る

マウスガードで安全教育推進 No.1

今回、公式ホームページに「学校安全プロジェクト」のメニューが追加されました。学校生活では、さまざまな危険が潜んでおります。部活動での事故、怪我也多く、中でも「硬式球」を使う野球は、安全教育が重要です。用具・ガードの正しい使い方を理解することで「防げる事故」もあり、その一つとして日本学校歯科学会、日本高等学校野球連盟と連携し、本校野球部は「マウスガード」を取り入れています。

生徒は、事前指導→学会研修→器具の個別製作の段階を経て、独自の「マウスガード」を入手します。

怪我から生徒を守る

マウスガードで安全教育推進



高間副校長による一年生への事前指導 2019.10.11

学校安全教育調査研究事業について

趣旨

我が国の児童生徒等の歯・口の健康づくりの取り組みは、近年、歯周病や咀嚼・摂食にかかわる口腔機能の未発達、歯・口の外傷防止が中心となっている。

とりわけ、スポーツ基本計画に位置付けられたスポーツ医科学との協働を進める重要性や2020東京オリンピック・パラリンピックの開催が迫る中で、学校等でのスポーツ活動における、歯・口の外傷防止教育が重要な課題となってきた。

したがって日本学校歯科医会では関係機関・団体等と連携し、これまでの「歯・口の健康づくり」を支える重要な基盤として、野球を中心とした学校のスポーツ活動におけるは歯・口の外傷防止教育の普及推進のための実践的な取り組みを進める。

日本学校歯科協会

事業テーマ

学校安全教育研究調査委員会を設置し、スポーツ活動(野球を中心とする)における歯・口の外傷防止教育の実践教育と調査、普及啓発及び学校歯科医の研修資料を作成する。

事業実施主体 一般社団法人日本学校歯科医会連携機関・団体等

公益財団法人 日本高等学校野球連盟

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

一般社団法人 日本スポーツ歯科医学会

一般社団法人 埼玉県歯科医師会 他



浦和学院高等学校野球部は、前述の事業に関して日本学校歯科医会・日本高等学校野球連盟より委嘱を受け調査研究に参加・協力をする。



自分は大丈夫ではない!!

野球を中心とするスポーツから外傷を防止する No.2

高校生に「マウスガードの装着」の意味を認知させることは、容易なことではありません。校内での事前指導講習で予め「その必要性」を感じとり、外傷防止という目的意識を育ませていきます。野球部1年生を対象に明海大学学長の職にある安井利一先生に特別講義をいただきました。「歯と口は大切な臓器である」と言う、引き込まれるような話の中で、オリンピック選手やWカップで話題となったラグビー選手の必需品になっていることは、生徒たちにとってとても関心を抱くことに繋がりました。

専門家による特別講義



明海大学学長 安井利一先生 2019.10.17

生徒たちは口の中に入れる違和感を払拭しながら「その重要性」を理解していきます。怪我で選手生命を絶たれる選手も多いことから、学校での安全教育は必須と考えます。「首から上の怪我」は、命取りにもなりかねません。日頃からの意識的な習慣が生徒の意識を高めていきます。



特別講義の後は、市販タイプのマウスガードを作成し、実際に装着、生徒たちは「馴染むこと」からはじめていきます。明海大学歯学部の松本准教授から指導をうけていきます。

スポーツ外傷防止教育普及

◆「スポーツで前歯を失う子どもを減らしたい」— 予見学習やマウスガード装着の普及啓発にも取り組む

アスリートのパフォーマンスに加えて、スポーツ歯科では体育活動における外傷予防も重要なテーマとして捉え、啓発活動にも取り組んでいる。スポーツで前歯を失う中学生・高校生は多く、それを減らしていくには子どもたちに対する教育が重要になるからだ。

ルールの理解や技術の習得、用具の管理に加えて、教育で特に重要なのは「予見学習」である。すでに体育活動における過去のデータを見れば、どの競技で外傷が多く起こっているか、また外傷がどの部位に多いかもわかっており、そのエビデンスを基にきちんとサポートすることが求められる。そしてもう1つ重要なのが安全具の装着だ。中学校のバスケットや高校の野球は外傷が多く、その部位も上の前歯に集中していることから、こうした体育活動でマウスガードの装着が徹底されれば外傷の可能性は大きく減る。



実践での試み、外傷の防止

MY マウスガード完成!! No.3

勉強会を経て、各自のマウスガードが完成した。透明色から今年度は「白色」、装着の確認が容易くできる。自動車のシートベルト同様、装着時の影響、装着していない時の影響は格段に大きく、永久歯を自らの防衛で守ることにつながる。「自己管理ができる選手は技術の成長も著しい」と言われている。その裏づけは「意識改革」。周囲が環境を整え、プレーする生徒たちが実際に正しい装着方法で使用する。日本学校歯科医会・日本高等学校野球連盟が事業テーマとして取り組む「外傷事故防止」、全国では二校がモデル校として認定、先駆けた安全教育を実践している。